

奥州遺産

― ときを越え

受け継がれるもの ―

第108回

小山飛行場

〓 胆沢小山字柴山 〓

日本の敗戦が色濃くなった昭和20年4月。本土決戦に備え、小山柴山に飛行場が造られた。戦争で男手が足りなくなる中、飛行場の建設に動員されたのは、県内の中学生2千数百人。3カ月余りの間、不衛生極まりない環境下で、重労働を強いられたという。

この飛行場は、特攻専用の秘匿飛行場として計画されたもの。滑走路上には、偽装工作として車（キャスター）付きの民家や樹木が配置されたほか、芝を植えたあぜ道がつくられ、上空から田んぼに見えるような工夫がなされていた。しかし、米軍艦載機の活動報告書には「専門的な偽装」としてこれらの偽装方法が記されており、見破られていたことが伺える。

終戦直前、完成した小山飛行場に飛来した飛行機はわずかに数機。同年8月15日にひっそりと敗戦を迎えた。役目を終えた飛行場は水田に戻され、戦争の記憶をその地下にとどめている。



1 小山柴山にある小山飛行場跡地の石碑。歴史を後世に伝えるべく、平成15年に動員学徒、在京胆沢町友会や地元の有志によって建立された **2** 昭和20年8月の小山空襲の際に機銃掃射で被弾した小山国民学校の鐘。現在は胆沢第一小学校が所蔵し、戦争の恐しさを今日に伝える

広告

● 広告の問い合わせは、(株)東広社 (☎ 0197-64-1523)



広報おうしゅう

Vol. 163

■ 発行日／令和元年9月12日

■ 発行／奥州市

〒023-8501

奥州市水沢大手町一丁目一

■ 電話／0197-22111

■ 印刷／あべ印刷(株)